

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究（c）

研究期間：2009 年～2011 年

課題番号：21530949

研究課題名（和文） 小学校・中学校・高等学校の発達段階に応じた古典教育カリキュラムの研究

研究課題名（英文） Research of the classical education curriculum according to the developmental stage of the elementary school, the junior high school, and the high school

研究代表者

渡邊 春美 (WATANABE HARUMI)

高知大学教育研究部人文社会科学系・教授

研究者番号：10320516

研究成果の概要（和文）：「関係概念」としての古典観に基づいて、小学校・中学校・高等学校の児童・生徒の発達段階を見通したカリキュラムを開発した。開発にあたっては、古典教育の意義・目標を措定し、古典教育の方法を先行の理論と実践に基づいて開発し、古典教材の選定・編成を行い、古典教育カリキュラム開発を行った。

研究成果の概要（英文）：Based on the classic view as a "relational concept", the curriculum which foresaw the developmental stage of the child and the student of an elementary school, a junior high school, and a high school was developed. In development, the meaning and the target of classical education were clarified, the method of classic education was developed based on the theory of precedence, and practice, selection and organization of classic teaching materials were performed, and classic education curriculum development was performed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：国語教育学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：古典教育、小・中・高一貫、カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

平成 17 年度に実施された高等学校教育課程実施状況調査の一環として「質問紙調査」が行われた。古文・漢文が「好きだ」ということに対する否定的な回答は 70% を超えている。古典に対して興味・関心を持たない学習者が増加し、古典離れ、古典嫌いに至っているという実態の報告は、戦後の早い時期からなされていたが、今日の実学志向と相俟

って、その傾向は強まっていると見える。古典教育の改善は、国語教育に携わる者の切実な課題の一つである。

これまで、小学校・中学校・高等学校の古典の学習指導は、①教材の重複、②教材量と時間数の飛躍的拡大、③学習指導の関連性の断絶、④既成の価値観の押し付けに問題があった。①の教材の重複に関しては、杉村修一「中学校・高等学校における古典教育の研究

一『学び方』としての学校間連携―（信州大学大学院教育学研究科 2004 年度修士論文）に詳しく、とりわけ中学校・高等学校「国語総合」の重複度は 68%になっている。②に関しては、「小・中・高における古典教育のつながり」（『東京学芸大学附属学校研究紀要』第 25 集 1998 年 東京学芸大学附属学校研究会刊）が、小学校（年間数時間）→中学校（同 15 時間）→高等学校（年間 60 時間以上）と時間数が大きく変化し、それにもなつて教材の量的変化が飛躍的に増大していることを取り上げ、それが学習者の古典への抵抗感や恐れにつながっていることを指摘している。③に関しては、杉村修一は、上述の論考の中で、中学校で古典が面白いと言っていた学習者が、高等学校に入ると一転して古典嫌いになることに言及し、これは中学校側、高等学校側に古典教育に関する相互理解が無く、高等学校は旧態依然とした古典文法ならびに解釈中心の授業が進められている現状に原因があるとしている。さらには、古典の価値を、古典との対話を通して学習者に発見させる指導よりも、古典の価値を一方向的に理解させようとする傾向があった。

2. 研究の目的

古典を長い年月に亘って読み継がれた、アプリアリに価値あるものとする古典観に対し、古典は、学習者の主体的働きかけで出現し、そこに価値や意義が見出されて初めて古典となるとする、「関係概念」としての古典観がある。後者は、古典との出会いと対話を重視し、創造的で豊かな読みを追求し、古典の学び手を育てる古典教育を目指すものである。この新しい古典観に立って、小学校・中学校・高等学校の児童・生徒の発達段階を見通した、連続性のある、適切かつ豊かな学びの実現を図る、古典（古文）教育のカリキュラムを開発することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 課題の設定

この目的を達成するために、小学校・中学校・高等学校の発達段階に配慮し、以下のような研究の課題を設定する。

- ①古典教育の意義・目標の措定。
- ②古典教育の方法の開発。
- ③古典教材の選定・編成。
- ④古典教育カリキュラム開発の検討、改善。

(2) 計画と方法

平成 21 年度には、基礎的研究として小学校・中学校・高等学校の各段階に応じた①古典教育の意義・目標、②古典教育の方法、③古典教材の選定・編成について役割分担に基づき、協議しつつまとめていく。①については、戦後の古典教育論史を参考に、②は古典教育実践の展開を参考に、③は、戦後教科書

掲載教材を参考にしつつ、古典文学からの選定、編成を行う。

22 年度は、上記①②③の研究に立って、小学校・中学校・高等学校の各段階に応じたカリキュラムを分担し、協議しつつ作成する。

22 年度後半から 23 年度にかけて、カリキュラムの一部を授業に移す。授業は、研究代表・研究協力者によって行われる。

4. 研究成果

古典は、虚構の文芸作品を含めて、時代状況を生きた人々の生活と精神の記録であり、時代を経て読み継がれ、今日に生きている。それは、読む者に応じてさまざまな姿で立ちあらわれ、読む者の生活と精神とを相対化し、認識を新たにさせる。そこに古典の生命があり、価値がある。すぐれた古典との出会いの場を与えられ、主体的に読むことによって、ものごとへの認識（感動）を深め、ものの見方・感じ方・考え方を学び、指針や示唆を与えられ、あるいは反省を得る。古文を読むことの意義は、ここに見出される。

以下、研究課題に沿って、成果をまとめた。

(1) 古典教育の目標の措定。

古典教育の目標については、発達段階に基づき、概要を次のように考えた。①には教材の基準を置いている。

【小学校】

《低学年》

- ①口語体・文語体に書き直された古典。昔話・民話。
- ②繰り返し読み、内容について概要を理解する。
- ③語調・リズムについて感覚的に楽しむことができる。

《中学年》

- ①口語体・文語体に書き直された古典、易しい古典（俳句・和歌）。
- ②繰り返し読み、内容のおおよそを読み取り、現代との共通点や相違点について考える。
- ③語調・リズムの特色を感じ取りつつ音読を楽しむことができる。

《高学年》

- ①文語体に書き直された古典や易しい古典、傍訳を付けるなどの工夫がなされた古典。
- ②繰り返し読み、内容を読み取り、現代との共通点や相違点に気づき、その背景について考える。
- ③語調やリズムの特色を意識し、音読・群読に反映させて楽しむことができる。

【中学校】

- ①易しい古典、現代語訳を付けたり、傍訳を付けたりするなどの工夫がなされた古典。
- ②繰り返し読み、内容を読み取り、主題や要旨を捉え、現代との共通点や相違点を、その背景とともに考え、自らを振り返る。

- ③ 古典を読むための基礎的な知識・技能を用いて読み、古典の語調やリズムの特色を内容と関連させて理解し、音読・朗読・群読に反映させ、味わうことができる。

【高等学校】

- ① 様々な時代の、また様々な種類の古典、必要な注釈を付したり、傍訳をつけたりした古典。
② 繰り返し読み、内容を読み取り、主題や要旨を表現に基づき適切に捉え、現代との共通点や相違点を、その背景とともに考え、自らと時代・社会を振り返り、古典を批評する。
③ 古典を読むための知識・技能を活かして読み取り、古典の語調やリズムの特色を内容と関連させて理解し、音読・朗読・群読に反映させ、鑑賞することができる。

(2) 古典教育の方法の開発

適切な教材の開発、編成のほかに、授業作りの基本として、授業の、ア. 個別化、イ. 活動化、ウ. 協同化、エ. 創造化 オ. 発展化を考えたい。

A 古典を学ぶ学習主体の育成

- a. 興味・関心、意欲の喚起
ア. 学習者の実体・実態に基づいた教材の開発。

イ. 興味・関心、意欲を喚起する学習テーマの設定。

ウ. 導入の工夫(長期・短期にわたる導入)。

エ. 学習目標の明示(方向目標と達成目標を明らかにし学習への意欲を喚起)。

オ. 学習の進め方の提示(学習課題、学習の手引きによる授業の計画と内容の理解)。

b. 主体的・積極的学習

ア. 班別学習・個別学習(学習者を生かし、主体的参加を促す形態)

c. 学習の充実感と達成感

ア. 学習成果の集積(学習の記録・冊子作りなど)

B 指導過程・指導形態

ア. 基本→応用→発展という指導過程による読みの深化・拡充

イ. 指導形態の多様化(一斉・班別・個別の指導形態を目的・段階・過程に応じて採用)

ウ. 評価と指導の関連

C 教材の開発と編成

ア. 親しみや興味・関心を喚起する教材、発見をもたらす価値ある教材。

イ. 主題(テーマ)追求のための教材(主題の発展・深化、主題に基づく重ね読み・比較読みのための教材)。

ウ. 指導過程・指導段階に応じた教材(指導過程—基本・応用・発展に応じた教材、発達段階、学力実態に応じた教材)。

エ. 様々な言語活動のための教材(朗読、討議、文章表現、虚構の表現等に適切な教材)。

オ. 学習者の開発する教材。

カ. 学習者の表現による教材(学習の過程で行われる言語活動の成果による教材)。

D 古典を読み味わい・批評する力の育成

ア. 読みを表現に関連させることによる理解、鑑賞の深化(感想文・小論文による理解の深化、鑑賞力・批評力の育成、内省的思考)。

イ. 虚構の表現による認識の深化(登場人物の日記・手紙による作品世界の想像と感得)。

ウ. 作品の構造に即した板書による確かな理解)。

エ. 焦点化されたことばと優れた表現の感得。

E 内省による現実認識・自己認識

ア. テーマを読みと現実認識に機能(テーマを軸とした古典の読み、同テーマを軸とした現実認識)。

イ. 古典の読みの観点を現代の事象に重ねることによる人間の発見(普遍的な心の発見、状況に生きる人間の発見、現実認識)

(3) 古典教材の選定・編成。

小学校、中学校においては、教科書教材を中心にしつつ、俳句、和歌、随筆の教材化を図った。

古典の教材開発・選定・編成の観点は、①学習者の興味・関心、②追求すべき学習主題、③指導過程への対応、④学力育成、⑤古典概念の拡大、⑥アジア・世界の古典である。根底に、「『生命と生き方への根源的な問い』を鍛え深めさせていく」教材を求め、次のような主題を設定し、それらを軸に教材を開発・選定・編成する。主題は、自然・愛(親子・家族)・友情・生きる知恵・命・愛(男女・主従)・戦い・死・旅・ことば・罪・人間性・状況と人間・思想などが考えられる。他に、⑦学習支援のための開発・編成、⑧学習者の学習過程で産出された教材の開発・編成がある。例えば、高等学校においては、次のように選定・編成を行った。

【高等学校1年】

①「古典入門—古典を学ぶ意味を求めて—」(『宇治拾遺物語』・『徒然草』・『古今和歌集』他)

②「武人の心を読む—「馬盗人」(『宇治拾遺物語』)—

③「状況と人間」(『平家物語』他)

④ものの見方をさぐる—『方丈記』・『徒然草』—

⑤「『みやび』の世界を歩く」(『伊勢物語』)

【高等学校2年】

- ①「学ぶということ」（『うひ山ぶみ』『解体新書』・『蘭学事始』他）
- ②「金銀の威勢と人間」（『日本永代蔵』）
- ③風雅を求めて—芭蕉・蕪村・一茶—
- ④「Who are you, 清少納言」（『枕草子』）
- ⑤「自然と愛」（『万葉集』・『古今和歌集』・『新古今和歌集』・琉歌）

【高等学校3年】

- ①「状況を生きる」（『船長日記』）
- ②「歴史を生きた人々」（『大鏡』）
- ③「様々な愛の姿」（『源氏物語』）
- ④「白鳥の悲歌—日本文芸の抒情的展開—」（『古事記』・『万葉集』・『伊勢物語』他、近代詩・短歌・俳句を含む）
- ⑤「人間と運命」（『オイディプス王』・『古事記』・『蜻蛉日記』・『更級日記』）
- ⑥古典に学んで—一人ひとりに生きる古典—

(4) 古典教育カリキュラム開発の検討、改善カリキュラム作成の基本方針を、次のようにした。

ア. 認識深化と学力育成のための教材化（教材関連の現代の文章・学習者の産出した文章を含む）。

イ. 学習者の興味・関心、問題意識の喚起、維持、発展。

ウ. 教材と学習者の対話、学習者間の交流。

エ. 学習の内面化。

オ. 学習者の主体的共同学習、課題解決学習。

カ. 古典教材と学習者との関係性の創造。

キ. 学習者の主体的活動による古典の価値の創造的発見。

ク. 国語学力の育成、課題解決力、情報操作力の育成。

ケ. 学びの方法を身につけた主体的な学習者の育成。

コ. 古典教材の評価

サ. 自己評価。

先に、教材編成を挙げた、高等学校のカリキュラムの1例を、次に掲げる。

【単元1】

①古典入門—古典を学ぶ意味を求めて—

【教材】

『宇治拾遺物語』・『徒然草』・『古今和歌集』・「朝三暮四」他

【指導目標】

①古典を、興味をもって楽しく読めるようにする。

②古典を学ぶ意味を実感として理解させる。

③主述などの文の構成、文章の構成を基に内容のあらましをとらえる。

【知識】

①古典の表現に基づき言語要素・文法の知識を増やすとともに、それを活かして読もうと

する。古典を通して生活・社会・有職故実や時代背景、時代思潮への理解を広げ、また、それを活かして内容を読みとろうとする。

【技能】

②〈音読・朗読・群読〉古典の語調やリズムに合わせ、音読・朗読・群読を行う。

③〈内容理解〉文章の内容のおおよそを把握する。

④〈語句理解〉分からない語句は辞書を引き、構造、経験、文脈から漢字・語句を理解しようとする。また、助詞・助動詞の一般的な意味を確認しつつ語句を理解しようとする。

⑤〈文学的文章〉文法的知識、背景的知識と関連させながら、表現の特色を意識し、表現に基づいて場面をイメージし、あらすじを把握しつつ、作中人物の変容をとらえ、古典との対話を通して主題を読みとろうとする。

⑥〈論理的文章〉問との関係で段落の要旨をとらえることに基づいて全文の要旨をとらえ、ものの見方、考え方を読みとる。また、文体や表現の工夫を読みとる。

⑦〈評価〉古典を対話を通して読みとり、表現の論理性・説得性・要旨、形象性・主題を、主体と時代状況との関わりにおいて理解し批評する。

【興味・関心】

○古典への興味・関心を持って、古典を読むとする態度。

*本カリキュラムは、項目別に記したが、実際には表にまとめている。

カリキュラムの一部については授業を行った。授業に基づいてカリキュラムを修正すべきであるが、さらに授業に基づいて検討することが今後の課題になっている。

5. 主な発表論文等（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

①武久康高、“〈作者〉の「心」と出会う”

中学校和歌教材試案—小学校・中学校・高等学校における和歌学習の展開（3）—、論叢国語教育学、査読無し、復刊3号、2012、印刷中

②武久康高、小学校・中学校・高等学校における和歌学習の展開（2）—小学校実践編—、高知大学教育実践研究、査読無し、26号、2012、67-78

③渡辺春美、戦後における古典教育課程の検討—高等学校学習指導要領の変遷を中心に—、高知大学教育学部研究報告、査読無し、72号、2012、57-69

- ④武久康高、小学校・中学校・高等学校における和歌学習の展開、高知大学教育実践研究、査読無し、25号、2011、125-137
- ⑤渡辺春美、歴史と実態に基づく暗唱指導の必要性—中等教育を中心に—、月刊国語教育研究、査読無し、日本国語教育学会、2011、32-35
- ⑥渡辺春美、西尾実の古典教育論の展開—古典教育方法としての段階的鑑賞論を中心に—、高知大学教育学部研究報告、査読無し、第71号、高知大学教育学部、2011、87-96
- ⑦渡辺春美、戦後古典学習指導の展開—高等学校における片桐啓恵の場合—、語文と教育の研究、査読無し、10号、高知大学教育学部国語教育研究室、2011、50-66
- ⑧渡辺春美、古典に対する興味・関心喚起の方略、月刊国語教育、査読無し、東京法令出版、2010、22-25
- ⑨渡辺春美、日本學、査読無し、30号、東國大學校文化學術院日本學研究所 2010、213-243
- ⑩武久康高、「作品の価値について考察する」学習指導—類型化したパターンに焦点をあてた教材化—、国語教育研究、査読無し、51号、2010、77-86
- ⑪渡辺春美、教材の開発・編成と音読・朗読・暗唱指導の系統化、教育科学国語教育、査読無し、712号 2,009年8月号臨時増刊「新国語科の『解説』を言語活動に生かす—実践課題は何か」、明治図書 2009、140-142
- ⑫渡辺春美、戦後高等学校古典学習指導の試行と軌跡—伊東武雄の古典教育の展開—、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読有り、14巻1号(通巻第24号)、2009、41-73
- ⑬渡辺春美、戦後古典教育論の展開—昭和四〇年代の増淵恒吉の古典教育論—、『語文と教育』、査読有り、23号、鳴門教育大学国語教育学会、2009、1-10

[学会発表] (計 11 件)

- ①渡辺春美、高等学校における古典教育の構想—戦後古典教育に基づいて—、中国四国国語教育学会・第63回大会、2011. 11. 20、

広島大学

- ②渡辺春美、古典教育カリキュラムの構想、第2回九州国語教育学会、2011. 9. 11、福岡教育大学
- ③渡辺春美、戦後古典教育論の展開—古典教育の構想を求めて—、第52回広島大学教育学部国語教育学会、2011. 8. 11、広島大学
- ④渡辺春美、戦後古典教育実践の展開—加藤宏文氏の古典教育実践の場合—、中国四国教育学会 第62回大会、2010. 11. 20、香川大学
- ⑤渡辺春美、戦後初期古典教育実践の展開—野地潤家氏の古典教育実践の場合—、第119回全国大学国語教育学会、2010. 10. 30、鳴門教育大学
- ⑥渡辺春美、高等学校における古典教育の構想—戦後における高等学校古典教育実践の展開に基づいて—、第1回九州国語教育学会・佐賀大会、2010. 9. 5、佐賀大学
- ⑦渡辺春美、小学校における伝統的言語文化の授業の構想、第51回広島大学教育学部国語教育学会、2010. 8. 11、広島大学
- ⑧渡辺春美、教材研究の方法(1)—伝統的言語文化の教材研究—古文の教材 開発・編成と実際、第118回全国大学国語教育学会、2010. 5. 30、東京学芸大学
- ⑨渡辺春美、戦後における古典学習指導の展開—浮橋康彦の古典学習指導—、第117回全国大学国語教育学会、2009. 10. 17、愛媛大学
- ⑩渡辺春美、戦後における学習指導要領の変遷—高等学校国語科教育の形成—、第9回九州国語教育研究集会、2009. 9. 5、福岡教育大学
- ⑪渡辺春美、戦後古典学習指導の展開—高等学校における片桐啓恵の場合—、第50回広島大学教育学部国語教育学会、2009. 8. 11、広島大学教育学部
- [図書] (計 3 件)
- ①世羅博昭、朝倉書店、国語教育総合事典、日本国語教育学会編、2011、870、146-157
- ②渡辺春美、明治図書、国語科教育学はどうあるべきか、2010、233、93-95

③渡辺春美、溪水社、文学の授業作りハンドブック、2010、280、226-251

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

[授業] (計 4 件)

①渡辺春美、俳句のよさをみつけよう、高知大学附属小学校・3年 (2012.3、計2時間)

②武久康高、歌が生まれるとき、高知市立朝倉小学校・6年 (2011.9、計2時間)

③世羅博昭、万葉人の心の世界を探る—大津皇子と大伯皇女の物語—、徳島県立川島中学校・2年 (2011.2、計1時間)

④世羅博昭、和語・漢語・外来語、徳島県立川島中学校・1年 (2010.12、計1時間)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡邊 春美 (WATANABE HRUMI)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授

研究者番号：10320516

(2) 研究分担者

世羅 博昭 (SERA HIROAKI)

四国大学・生活科学部・教授 (2010年まで)

研究者番号：70461308

武久 康高 (TAKEHISA YASUTAKA)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・准教授

研究者番号：76461308

(3) 連携研究者

なし